豊岡市出石町

-円山川激甚災害特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成 24 (2012) 年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

巻頭カラー図版 1



鳥居遺跡遠景(東から)



現在の鳥居遺跡(2011年 12月撮影)



破 鏡



例 言

- 1. 本書は兵庫県豊岡市出石町鳥居に所在する鳥居遺跡の発掘調査報告書である。兵庫県文化財調査報告 の第423 冊にあたる。
- 2. 発掘調査は鳥居地区河道掘削工事に伴うものである。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が調査主体となって調査した。
- 3. 発掘調査は、平成18年度に兵庫県教育委員会が実施し、同埋蔵文化財調査事務所(現兵庫県立考古博物館埋蔵文化財調査部)種定淳介・鈴木敬二・小川弦太が担当した。
- 4. 遺構の実測は、調査員が行った。遺構の製図及び遺物の実測・製図は兵庫県立考古博物館埋蔵文化財調査部嘱託員が行った。
- 5. 写真は遺構を調査員が撮影し、遺物については(株)地域文化財研究所に委託した。
- 6. 本書の挿図第2図「周辺の遺跡」は、国土地理院発行の1/25,000 地形図「出石」、「江原」、「豊岡」、「須田」を使用した。
- 7. 本書の執筆は主に小川が行い、第2章は長濱誠司、第3章第2節は村上泰樹、杉村明美、小川で行い、 第3節は別府大学に分析を依頼し、その報告を掲載している。編集は嘱託職員杉村明美の協力を得て 小川が行った。
- 8. 調査で出土した遺物・写真・図版等の資料は兵庫県立考古博物館および魚住分館(明石市魚住町清水 630 1) において保管している。

凡例

- 1. 遺物は種類ごとに通し番号を付けているが、石製品にはSを金属器にはMを冠し、土器との区別を行っている。
- 2. 土器は種別によって断面の表現を変え、須恵器は黒塗り、土師器は白抜き、黒色土器は網掛け(濃)、 瓦質土器は砂目、陶磁器は網掛け(薄)で示している。

目 次

第1節	調査にいたる経緯	1
第2節	発掘作業の経過	1
第3節	整理等作業の経過	1
第2章	遺跡の位置と環境	
第1節	地理的環境	
第2節	歴史的環境	3
第3章	調査の方法と成果	6
第1節	調査の方法	6
第2節	遺構と遺物	8
第3節	兵庫県豊岡市出石町の鳥居遺跡から出土した	鏡片の鉛同位体比
第4章	総括	
	插図日	1 <i>/\r</i>
	挿図目	一次
第1図		
	遺跡の位置	第 14 図 出土土器 (10) 17
第 2 図		第 14 図 出土土器 (10) · · · · · · 17 第 15 図 出土土器 (11) · · · · · 17
第 2 図第 3 図	遺跡の位置 · · · · 3 周辺の遺跡 · · · · 5	第 14 図 出土土器 (10) 17
第 2 図 第 3 図 第 4 図	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7	第 14 図 出土土器 (10) · · · · 17 第 15 図 出土土器 (11) · · · 17 第 16 図 出土土器 (12) · · · 18 第 17 図 出土土器 (13) · · · 19
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7	第 14 図 出土土器 (10) · · · · · 17 第 15 図 出土土器 (11) · · · · 17 第 16 図 出土土器 (12) · · · 18
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 6 図	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7 出土土器 (1) 8	第 14 図 出土土器 (10) · · · · 17 第 15 図 出土土器 (11) · · · 17 第 16 図 出土土器 (12) · · · 18 第 17 図 出土土器 (13) · · · 19 第 18 図 出土石製品 20
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 6 図 第 7 図	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7 出土土器 (1) 8 出土土器 (2) 9	第 14 図 出土土器 (10) 17 第 15 図 出土土器 (11) 17 第 16 図 出土土器 (12) 18 第 17 図 出土土器 (13) 19 第 18 図 出土石製品 20 第 19 図 破 鏡 21
第 2 図 第 3 図 第 5 図 第 6 図 第 7 図 第 8 図	遺跡の位置 · · · · · · 3 周辺の遺跡 · · · · · 5 調査位置図 · · · · 6 調査範囲及び土器出土位置図 · · 7 出土土器 (1) · · · · 8 出土土器 (2) · · · · 9 出土土器 (3) · · · · · 10	第 14 図 出土土器 (10) 17 第 15 図 出土土器 (11) 17 第 16 図 出土土器 (12) 18 第 17 図 出土土器 (13) 19 第 18 図 出土石製品 20 第 19 図 破 鏡 21 第 20 図 鉛同位体比測定結果 25
第 3 図 3 図 4 図 5 第 第 第 第 第 第 8 9	遺跡の位置 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第 14 図 出土土器 (10) … 17 第 15 図 出土土器 (11) … 17 第 16 図 出土土器 (12) … 18 第 17 図 出土土器 (13) … 19 第 18 図 出土石製品 20 第 19 図 破 鏡 … 21 第 20 図 鉛同位体比測定結果 25 第 21 図 鉛同位体比測定結果 25
第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7 出土土器 (1) 8 出土土器 (2) 9 出土土器 (3) 10 出土土器 (4) 11 出土土器 (5) 12	第 14 図 出土土器 (10) 17 第 15 図 出土土器 (11) 17 第 16 図 出土土器 (12) 18 第 17 図 出土土器 (13) 19 第 18 図 出土石製品 20 第 19 図 破 鏡 21 第 20 図 鉛同位体比測定結果 25 第 21 図 鉛同位体比測定結果 25 第 22 図 広形銅矛・銅戈との比較 26
第 2 図第 3 図第 4 図第 5 月 6 月 7 日 図第 8 月 9 日 図第 10 図第 11 図	遺跡の位置 3 周辺の遺跡 5 調査位置図 6 調査範囲及び土器出土位置図 7 出土土器 (1) 8 出土土器 (2) 9 出土土器 (3) 10 出土土器 (4) 11 出土土器 (5) 12 出土土器 (6) 13	第 14 図 出土土器 (10) 17 第 15 図 出土土器 (11) 17 第 16 図 出土土器 (12) 18 第 17 図 出土土器 (13) 19 第 18 図 出土石製品 20 第 19 図 破 鏡 21 第 20 図 鉛同位体比測定結果 25 第 21 図 鉛同位体比測定結果 25 第 22 図 広形銅矛・銅戈との比較 26 第 23 図 広形銅矛・銅戈との比較 26

表目次

第1表	化学組成測定結果	24	第4表	遺物観察表 2	 30
第2表	鉛同位体比測定結果	24	第5表	遺物観察表3	 31
第3表	遺物観察表1	29	第6表	遺物観察表4	 32

写真図版目次

巻頭カラー図	図版 1	鳥居遺跡遠景(東から)	写真図版 9	土器 48・60・63 出土状況
		現在の鳥居遺跡(2011年12月撮影)		土器出土状況(北西から)
巻頭カラー図	図版 2	破鏡	写真図版 10	現地説明会
		出土土器		現地説明会
写真図版 1	鳥居遺	遺跡遠景(北から)		小坂小学校5年生見学
	鳥居遺	遺跡遠景(東から)	写真図版 11	出土土器(1)
写真図版 2	調査区	区遠景(北東から)	写真図版 12	出土土器 (2)
	調査区	区近景(南東から)	写真図版 13	出土土器 (3)
写真図版 3	調査区	区近景(北西から)	写真図版 14	出土土器 (4)
	調査場	犬況(東から)	写真図版 15	出土土器 (5)
写真図版 4	調査場	犬況(北西から)	写真図版 16	出土土器 (6)
	土器	5・42・47 出土状況(北東から)	写真図版 17	出土土器 (7)
写真図版 5	土器 4	42 出土状況(北東から)	写真図版 18	出土土器 (8)
	土器	42 出土状況(北東から)	写真図版 19	出土土器 (9)
	土器	5・47 出土状況(南東から)	写真図版 20	出土土器 (10)
写真図版 6	土器 4	47 出土状況(北東から)	写真図版 21	出土土器 (11)
	土器 :	11 出土状況	写真図版 22	出土土器 (12)
	土器 :	16 出土状況	写真図版 23	出土土器 (13)
写真図版 7	土器 2	22 出土状況(北東から)	写真図版 24	出土土器 (14)
	土器:	30 出土状況(南西から)	写真図版 25	出土土器 (15)
	土器:	33 出土状況(南東から)	写真図版 26	出土土器 (16)
写真図版 8	土器:	38 出土状況(北東から)	写真図版 27	出土土器 (17)
	土器と	出土状況	写真図版 28	出土石製品
	土器 5	52 出土状況(南東から)	写真図版 29	破鏡

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経緯

平成16年10月20日、近畿地方に上陸した台風23号は、円山川流域に豪雨をもたらした。円山川、出石川の堤防を越えた濁流は豊岡市街地に破壊的な被害を与えた。

国土交通省は復旧と将来の水害に備える「緊急治水対策」に、5年間の河川激甚災害対策特別緊急事業 (激特事業)を適用し、10年間で約900億円を投じる事業が開始された。

国の緊急治水対策は三時期に分かれる。第一期は平成17年6月まで。堤防の復旧及び、堤防の高さを計画高水位からプラス50cmの余裕高分に足りない区間をかさ上げする工事である。第二期は平成21年度まで。洪水時の流量を増やし水位を下げるため、川底や河川敷を掘る河道掘削である。また、築堤、橋の架け替え、排水ポンプの増設なども行われた。第三期は平成27年度まで、周辺遊水地の整備を行う。

これら事業の中、平成18年度より出石川において河道掘削工事が開始され、その施工中に河床付近から土器や磁器などが出土した。このことの報告を受けた国土交通省は県教育委員会へ直ちに連絡を行い、県教育委員会は専門職員の派遣を行った。その結果、掘削工事現場に埋蔵文化財が存在することが明らかとなった。このため、平成19年2月26日付け国近整豊調第66号で依頼を受け発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘作業の経過

調査は土器発見の連絡を受けて実施された。そのため、分布調査や確認調査は行われていない。

本発掘調査

遺跡調査番号:2006174

調査担当者:種定淳介・鈴木敬二・小川弦太

調査期間:平成19年2月28日~3月7日

調査面積:150m²

河床掘削工事中に完形に近い土器が出土した。国土交通省は直ちに工事を一時中止し、兵庫県教育委員会へ連絡を行った。教育委員会が現地の状況を確認したところ、河床に堆積する砂層中に遺物が存在することが判明した。そのため河床掘削工事と併行して調査を行うことになった。調査は、すべて人力で掘削を行い、写真撮影によって出土状況を記録した。調査の結果、遺構は存在しなかったが、破鏡、弥生土器、庄内併行期の土器、須恵器、土師器、出石焼等が出土した。

第3節 整理等作業の経過

出土遺物の洗浄、ネーミングは魚住分館で実施し、報告書作製に伴う本格的な整理作業(遺物実測、 復元、トレース、図版作製など)は兵庫県立考古博物館で実施した。

平成22年度

遺物の洗浄、ネーミング、復元、実測を行った。

整理保存課 岡田章一・山本誠・岡本一秀

嘱託員

A作業: 眞子ふさ子・島村順子・三好綾子・小野潤子・奥野政子・荒木由美子・藤池かづさ・

荻野麻衣・藤尾裕子・宮野正子・又江立子

B作業:杉村(旧姓:垣本)明美・岡田美穂・高橋朋子

平成23年度

トレース、遺構・遺物図版作製、遺物写真撮影、写真図版作製などの報告書編集作業を行った。 整理保存課 山本誠・深江秀憲・岡本一秀

嘱託員

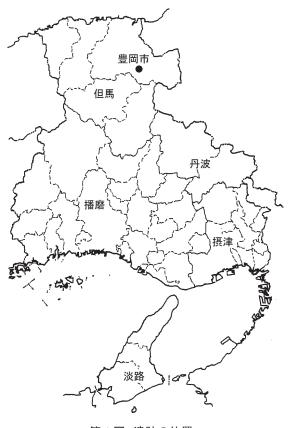
B作業: 杉村明美・古谷章子・八木和子・友久伸子・佐伯純子

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

鳥居遺跡が立地する豊岡市出石町鳥居は旧但 馬国出石郡出石に属する。豊岡市の東部に位置 し、北は京都府久美浜町と接する。出石町は平 成15年4月に豊岡市、城崎町、竹野町、日高 町、但東町と合併し豊岡市の一部となったが、 但馬6万石、仙石氏の城下町として栄えたとこ ろである。現在でも但馬の小京都として名高 く、当時の雰囲気を残した町には多くの観光客 が訪れている。

出石町は周囲を200~800m級の山地に囲まれ、その面積は町域の1/3近くを占める。山地の間をぬうように円山川支流の出石川が町域を貫流する。出石川は流長35.4km、豊岡市但東町小坂に源を発し、出石盆地を経て豊岡市伏で円山川と合流し日本海は津居山湾へと注ぐ。鳥居遺跡から日本海までは、川沿いに約22kmある。円山川下流域には但馬最大の豊岡盆地が広がる。かつてこの盆地は入り江であったと考えられ、現在でも海抜は4~5mと非常に低い。



第1図 遺跡の位置

第2節 歷史的環境

鳥居遺跡の地名である「鳥居」は出石神社の鳥居があったことに由来するとの伝承がある。出石神社は、鳥居遺跡の真東約0.8kmの地点にある。出石神社の祭神は新羅からの渡来人アメノヒボコであるが、アメノヒボコは伝説上の人物である。しかし、近年の考古学的な研究により但馬地域と朝鮮半島との交流が明らかにされ、渡来人集団を象徴化したものがアメノヒボコであると考えられている。神社は但馬国一ノ宮であり出石が古来より但馬の伝統的な中心地であったことを示している。

旧石器・縄文時代

旧石器の遺跡は但馬の高原地域を中心に多数確認されているが、出石町周辺では確認されていない。 縄文時代では、砂入遺跡で前期の土坑が確認されている。また、出石神社付近では土器・石器が採集されている。

弥生時代

集落は確認されていないが、袴狭遺跡群から前期までさかのぼる土器が出土している。宮内黒田遺

跡、出石神社境内遺跡、宮内遺跡において弥生時代後期~古墳時代初頭の遺物が多量に出土している。 この時期の墳墓は半坂峠墳墓群、御屋敷遺跡、田多地引谷墳墓群、入佐山墳墓群などがある。これらの 墳墓は丘陵上に築造されている。

古墳時代

森尾古墳は古墳時代初頭を代表する古墳であり、「□始元年」銘の三角縁神獣鏡が出土している。田多地引谷の墳墓からは珠文鏡や五銖銭、鉄製品など豊富な副葬品が出土している。茶臼山古墳は径40m以上の大型円墳であり埴輪を有する。平野や出石川周辺の丘陵尾根上には小規模な古墳が多数築造されている。カヤガ谷古墳群は竪穴系横口式石室という特異な形態をもつ。この時期も集落については不明な点が多いが、入佐川遺跡では前期の土器が出土し、掘立建物も検出され、至近に集落の存在が考えられる。

古代

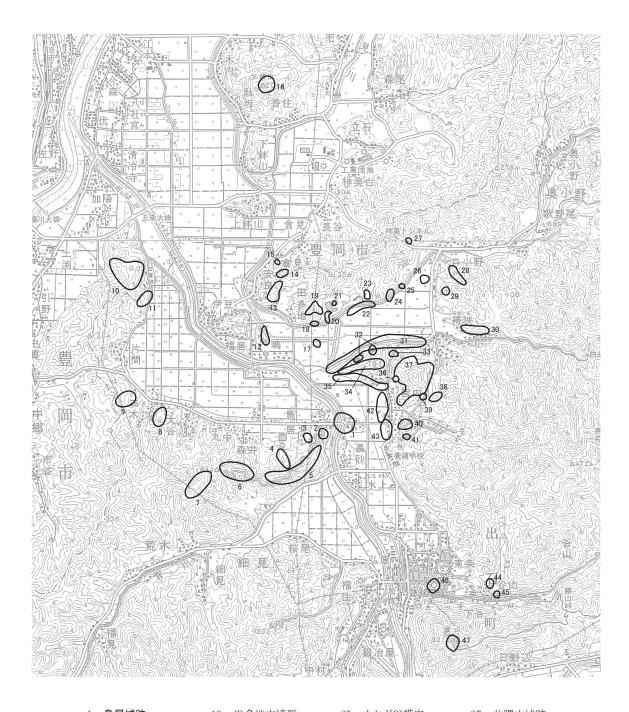
但馬国府の推定地とされる袴狭遺跡群のうち、砂入遺跡、荒木遺跡、袴狭遺跡、入佐川遺跡からは7世紀末~9世紀の建物跡などが検出されている。また袴狭遺跡からは木簡や墨書土器、石帯や帯金具、銅印、人形や斎串をはじめとする祭祀具など官衙的色彩の強い遺物が多量に出土している。出石郡が但馬の中心地であった時期である。

中世

この時期の出石を特色づけるものは守護大名の山名氏である。山名氏は上野国山名郷(群馬県高崎市)を本拠としていたが、1344年に山名時氏が南朝の拠点であった三開山城を攻略し居城とした。これが山名氏の但馬支配の端緒となる。その後但馬に勢力を伸ばして15世紀末に但馬の支配強化のために下向する。この時期に山名氏は守護所を此隅山城とその山麓に移し16世紀後半まで但馬支配の本拠地となる。此隅山城山麓には守護の館を中心に上級武士の屋敷、寺院が配置されさらにその外側に市場が形成される。宮内堀脇遺跡では守護所の西側について調査し、低湿地を造成して堀や土塁に囲まれた武家屋敷群が造られていることが明らかとなった。此隅山城北麓の袴狭遺跡では16世紀後半の三間堂が検出され、宮内堀脇遺跡出土の位牌に記された人物と同一人物の名が記された卒塔婆が出土し、守護所に住む人々の信仰の場であった。このように此隅山城山麓の状況は考古学的調査により明らかにされつつある。

参考文献

兵庫県教育委員会 2011 『鳥居城跡』



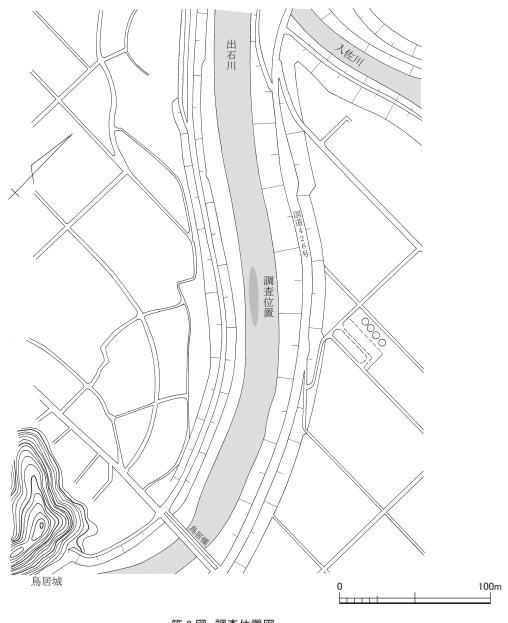
1.鳥居城跡	13. 田多地古墳群	25 . カヤガ谷横穴	37. 此隅山城跡
2. 鳥居遺跡	14. 安良古墳群	26. 荒木遺跡	38. 上坂古墳群
3. 東谷古墳	15. 下安良城山古墳	27. 篠谷2号墳	39. 上坂遺跡
4. 尾崎古墳群	16. 三開山城	28. 岩谷古墳群	40. 出石神社
5. 鳥居山頂古墳群	17. 嶋遺跡	29. 小野小学校裏山遺跡	41. 宮内遺跡
6. 森井山頂古墳群	18. 田多地小谷遺跡	30.新宮谷古墳群	42. 宮内堀脇遺跡
7. 大谷山頂古墳群	19. 田多地小谷古墳群	31. 袴狭遺跡	43. 宮内黒田遺跡
8. 黒谷古墳群	20. 田多地引谷墳墓群	32. 大谷墳墓群	44. 茶臼山古墳
9. 土田古墳群	21. 中通古墳	33. 下坂横穴群	45. 丸山古墳
10. 草山古墳群	22. 砂入遺跡	34. 坪井遺跡	46. 出石城
11. 土屋ヶ鼻古墳群	23. カヤガ谷古墳群	35. 入佐川遺跡	47. 有子山城
12. 虫生山遺跡	24.カヤガ谷墳墓群	36. 御屋敷遺跡	

第2図 周辺の遺跡

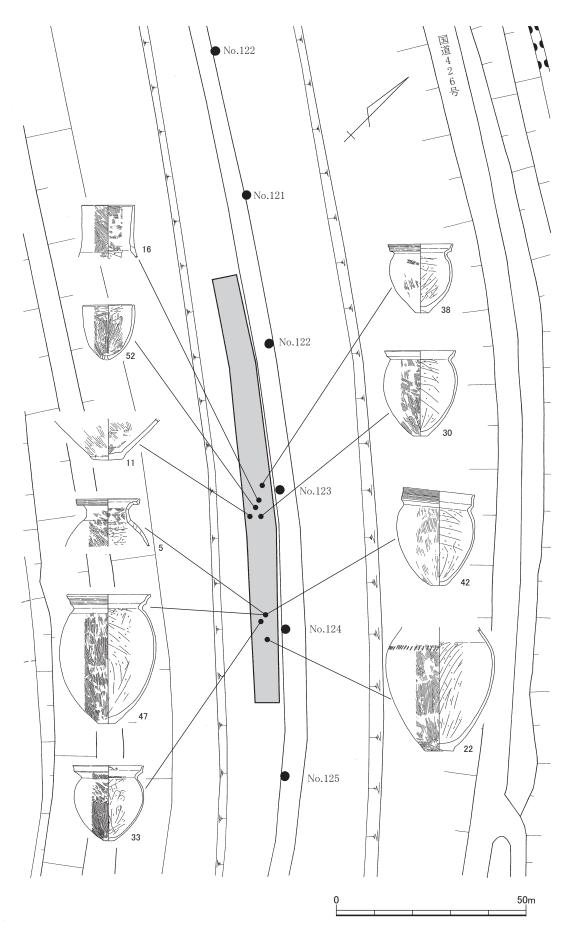
第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査場所は出石川の川底である。工事は、23号台風によって堆積した土砂を取り除き、左岸に新たに護岸を整備するものであった。大型土嚢を川の中央に積み重ね、川幅の半分を堰きとめた状態で護岸工事を行っており、調査地は川のほぼ中央部分である。遺物が確認されたのは川底に堆積した混じりけのない細砂~中砂層であった。施工地内に拡がるこの砂層の範囲を確定したのち、すべて人力により掘削し、調査を行った。



第3図 調査位置図



第4図 調査範囲及び土器出土位置図

第2節 遺構と遺物

川底の調査であり、遺構は検出されなかった。遺物について次に述べる。

弥生土器 (第5~12図·写真図版11~21)

1 は水差の把手挿入部の破片である。体部外面は縦ハケの後に、直線文と波状文を施す。内面は横ハケで仕上げる。

2は 量破片である。体部外面には直線文、斜格子文を施す。内面は横ハケで仕上げる。

3は甕である。口縁部をなだらかに外反し、端部を丸く仕上げる。内外面ともに煤が多く付着する。

4は甕である。口縁部は水平近くまで外反し、端部に面を持つ。体部外面には縦ハケを施す。

これらの土器は全て弥生時代中期以前のものである。

 $5\sim 8$ は壷であり、 $5\sim 7$ は口縁部に擬凹線を施す。また、6 の口縁部は上下に拡張し擬凹線を施した後、3 箇所に 2 個一対の円形浮文を貼り付ける。

9・10は複合口縁の甕である。9は口縁部の形態、10は体部外面に波状文を施すなど、山陰系の特徴を持つ。

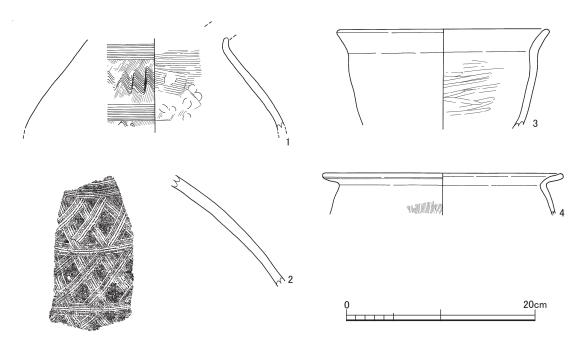
 $11\sim15$ は土器の底部である。11と13は外面にミガキ、12、14、15はハケを施す。11は底部外面に「十」の記号文が線刻され、15は工具の痕跡が残る。

16は直口壷である。口縁部はほぼ垂直にのび、体部となだらかにつながる。内外面ともハケ調整を施す。

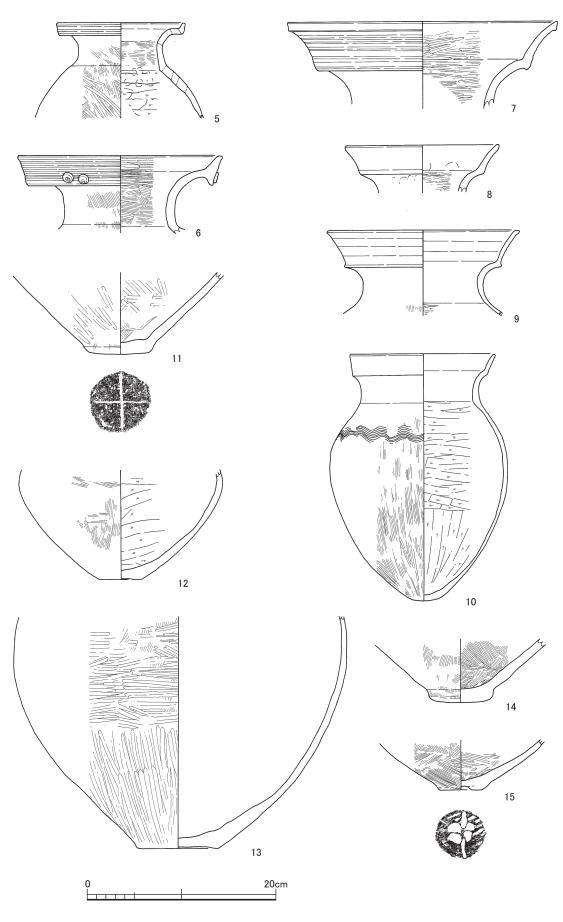
17、18、22は壺である。外面はハケ、内面はケズリの調整を施す。22は底部付近外面にタタキを行う。

18は端部を上方につまみあげる壷で、底部付近に穿孔が行われ、22は肩部付近に刻み目の文様を施す

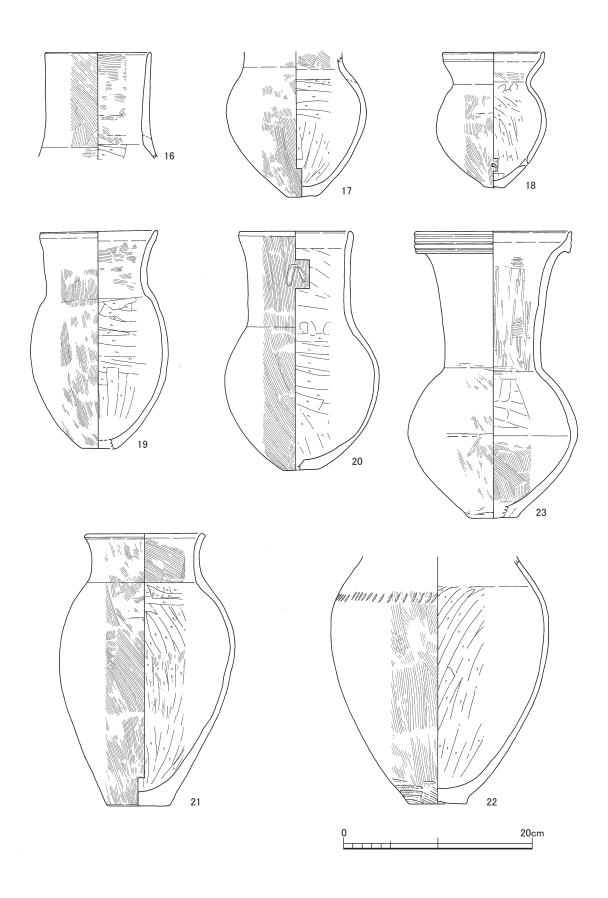
19、21は短頸壺である。19の体部は長胴型、21は体上部に最大径がくる。いずれも外面はハケ、内面は口頸部をハケ、体部にケズリの調整を施す。



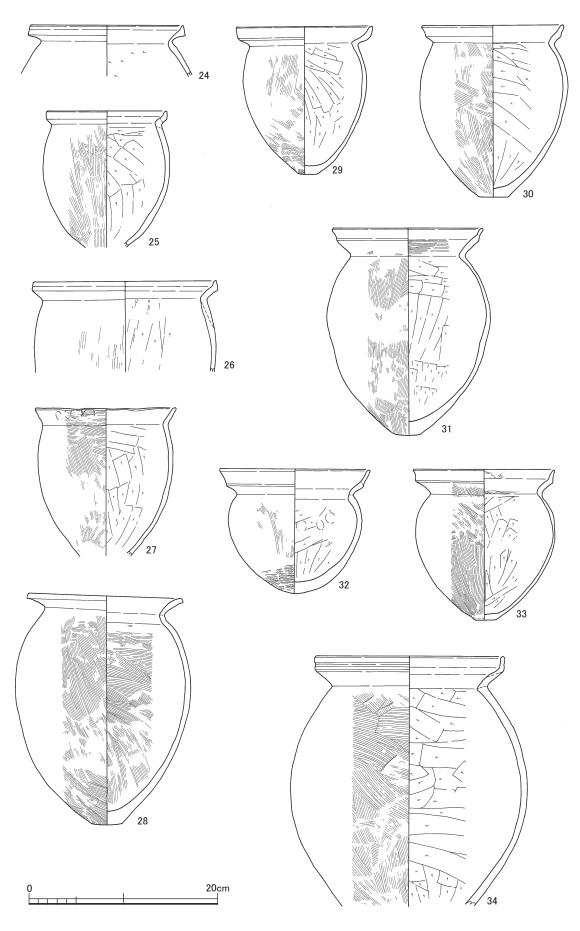
第5図 出土土器(1)



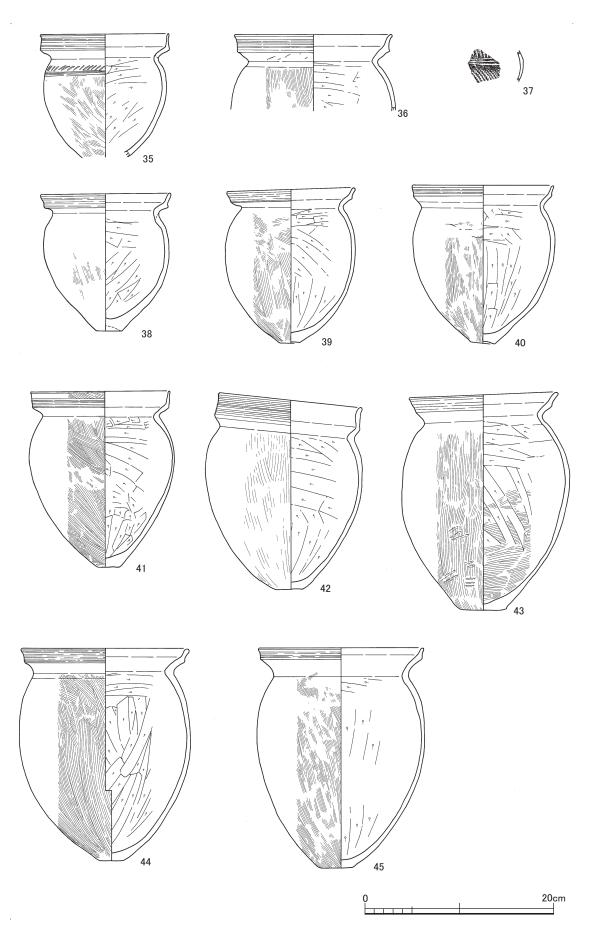
第6図 出土土器(2)



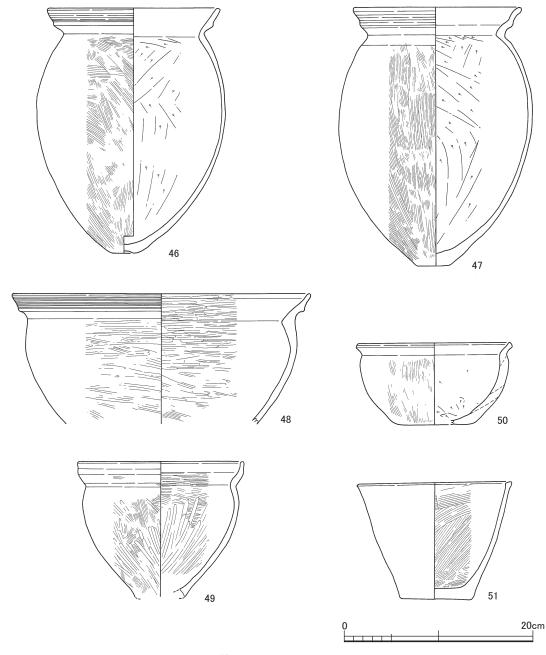
第7図 出土土器(3)



第8図 出土土器(4)



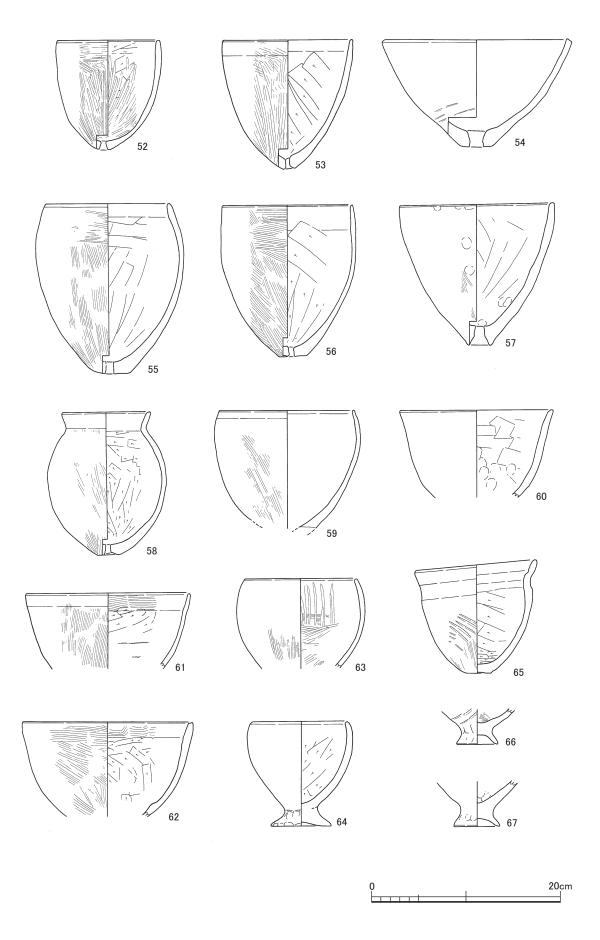
第9図 出土土器(5)



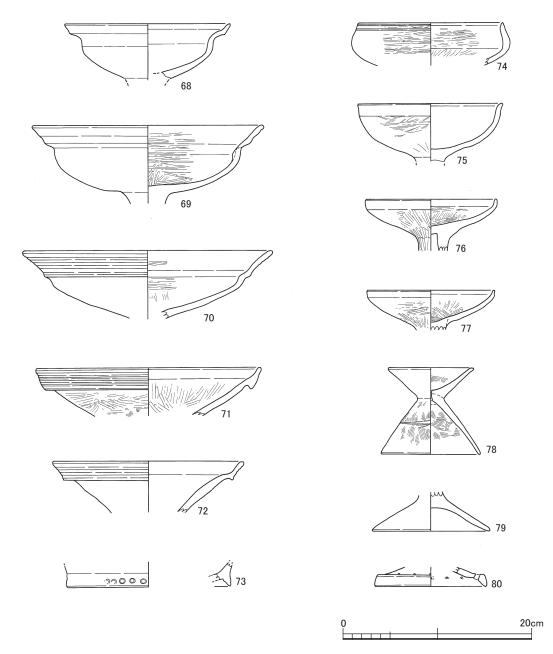
第10図 出土土器(6)

20、23は長頸壺である。20は口縁部外面に逆「U」字状の彫りこみ、底部内面に円形の窪み、外面には「十」字の薄い線刻がある。23は長い頸部に口縁端部を拡張し、太い擬凹線を施す。

24~47は甕である。出土した甕の大半は複合口縁の端面に擬凹線を施すもの(34~47)であるが、中には擬凹線を施さない個体(29~34)もある。調整は外面をハケ、内面をケズリで仕上げるのを基本とするが、32、43は外面にわずかだがタタキが残る。また、35・41・42は直立気味に立ち上がる口縁をもち、端部を薄く仕上げたり(35・41)、肩部付近に貝殻文と直線文(35・37)、口縁部に多条の擬凹線を施す(42)など、山陰系の特徴を持つ。これらの複合口縁の甕の他に、くの字状の頸部に口縁端部を拡張するもの(24)、跳ね上げ口縁のもの(25・26)、単純口縁で終わるもの(27・28)がある。28は内外面ともにハケ調整で仕上げる。出土したほとんどの甕に煤や焦げ跡が良好な状態で残っている。これらの甕はほとんどが外反気味の複合口縁と倒卵形の体部に小さな底部を持つことから、庄内併行期に位置づけられる。



第 11 図 出土土器 (7)



第12図 出土土器(8)

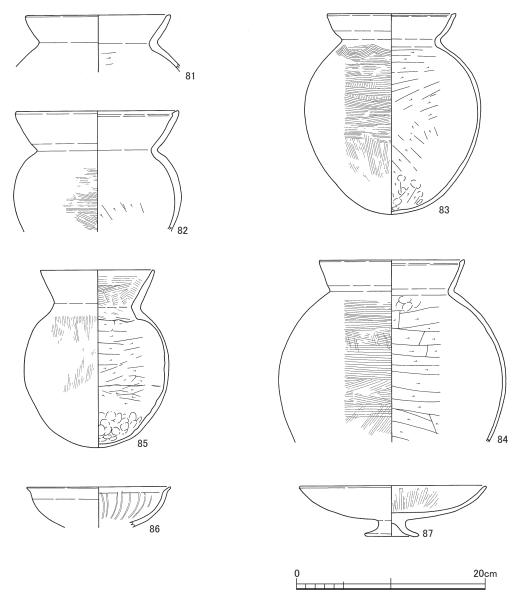
48~51は鉢である。48は口縁端面に明瞭な擬凹線が残り、内外面ともにヨコハケの後ミガキを施す。 49も内外面にミガキを施す。脚がつく可能性がある。51は外面の摩滅が激しく、二次焼成を受け煤が全体に付着する。

 $52\sim58$ は有孔土器であり、58の甕以外はすべて鉢である。煤の付着は一切見受けられない。倒卵形の甕の下半部に似た器形のものと($52\sim55$)、直線的に外側上方へ伸びるもの($56\cdot57$)の2タイプがある。

 $59\sim65$ は鉢であり、内湾するものと($59\cdot63\cdot64$)と外に大きくひらくもの($60\sim62$)とがある。64は台付の鉢である。65は複合口縁であるが擬凹線はない。

66~67は低脚の脚部である。

68~70は高坏であり、いずれも複合口縁である。69は内面にミガキを施す。70は口縁部に擬凹線をもつ。



第 13 図 出土土器 (9)

71~72は器台である。どちらも複合口縁で口縁部に擬凹線を施す。

73は複合土器の破片の可能性がある。竹管文を施す。

 $74\sim75$ は椀状の高坏である。74は口縁に2条の凹線文、内面下部に放射状のミガキを施す。75は外面にミガキを施す。

76~78は小型器台である。浅い皿形の受部のもの(76・77)とX型のもの(78)がある。78は内外ともハケ調整を行い、受部、脚部とも端部はヨコナデで丸くおさめる。受部の中心に焼成前穿孔がある。

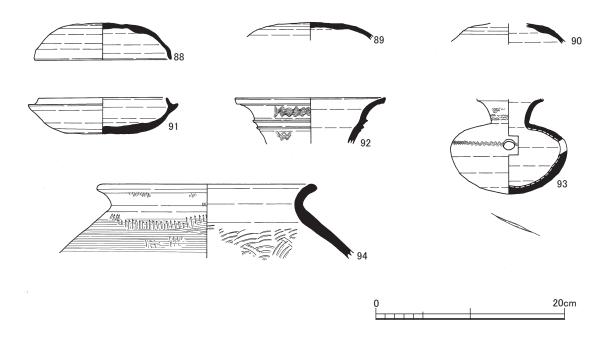
79~80は脚部である。80は端部に円孔の列が残る。

土師器 (第13図·写真図版22)

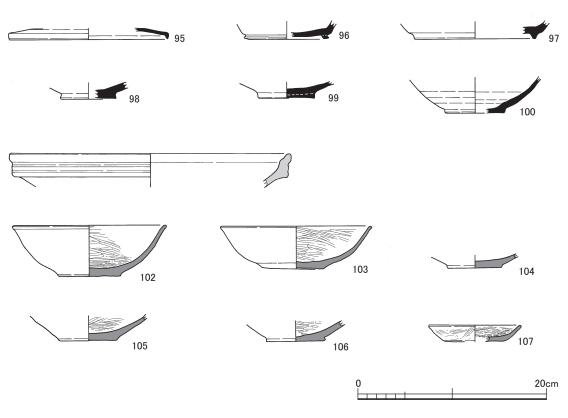
81~84は布留系の甕である。82~84は口縁端部を内側に肥厚させる。83は肩部付近に波状文を施す。

85は直口壷である。丸底で83、85は内面底部にユビオサエが多く残る。

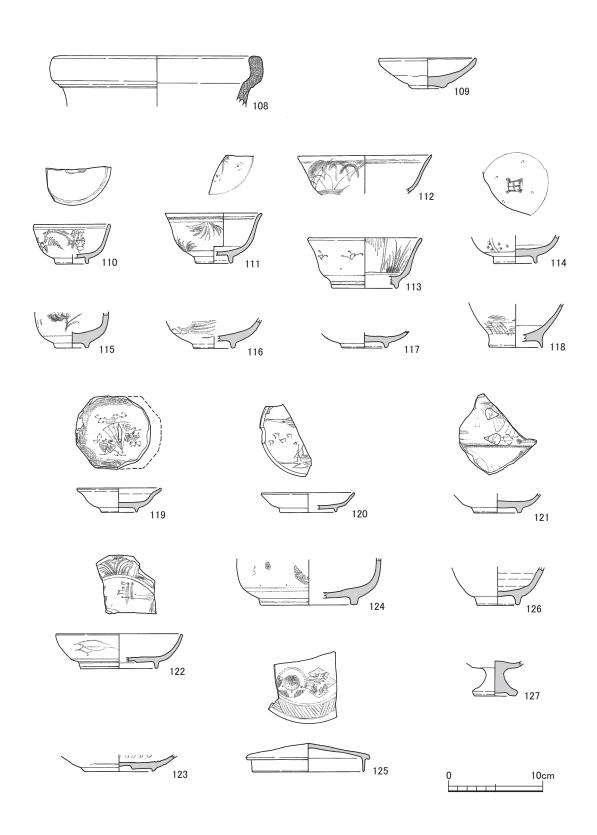
86・87は高坏である。86は口縁端部を短く外反し端部を丸くおさめる。坏内面に暗文が残る。



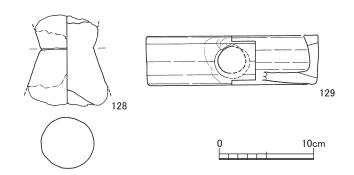
第 14 図 出土土器 (10)



第 15 図 出土土器 (11)



第 16 図 出土土器 (12)



第 17 図 出土土器 (13)

87は低脚坏で内面全体に放射状のミガキを施す。近年、古墳からの出土例から蓋との見解もある。 須恵器 (第14~15図・写真図版23)

古墳時代の須恵器は、壷(92)・ 聴(93) の5世紀末~6世紀初めの一群と、杯蓋(88~90)・杯身(91)・甕(94) の7世紀初めの一群が出土している。このうち杯蓋とした90は杯身の可能性をもつものである。

奈良時代の須恵器は杯蓋 (95)、杯B (96・97) が該当し、8世紀後半に比定できる。

平安時代の須恵器は椀(98~100)が出土している。いずれも底部の切り離しは回転糸切りである。 平高台をもつ98・99と平底に近い100があり、前者は11世紀代、後者が12世紀前半のものと考えられる。 黒色土器(第15図・写真図版24)

内黒の黒色土器Aの杯 (102~106) が出土している。内面はミガキ調整、外面が回転ナデ調整を施す。いずれも回転糸切りによる切り離しの底部をもつタイプである。107 は両黒の黒色土器Bの皿と考えられる。外面底部を含め内外に丁寧なミガキが施されている。黒色土器杯・皿の年代については11世紀後半と考えているが、須恵器椀を模倣したタイプと理解するならば13世紀代の可能性も考えられる。いずれにしても併出する資料に乏しく、今後の良好な出土事例を待ちたい。

備前焼(第15図・写真図版23)

101 口縁部に 2 条の沈線を巡らした備前焼擂鉢 (101) である。全体に摩滅が著しく遺存状況は悪い。 口縁端部内面の特徴から 17 世紀前半のものと考えられる。

瓦質土器 (第16図·写真図版25)

土管と考えられる108が出土している。

施釉陶器 (第16図・写真図版25)

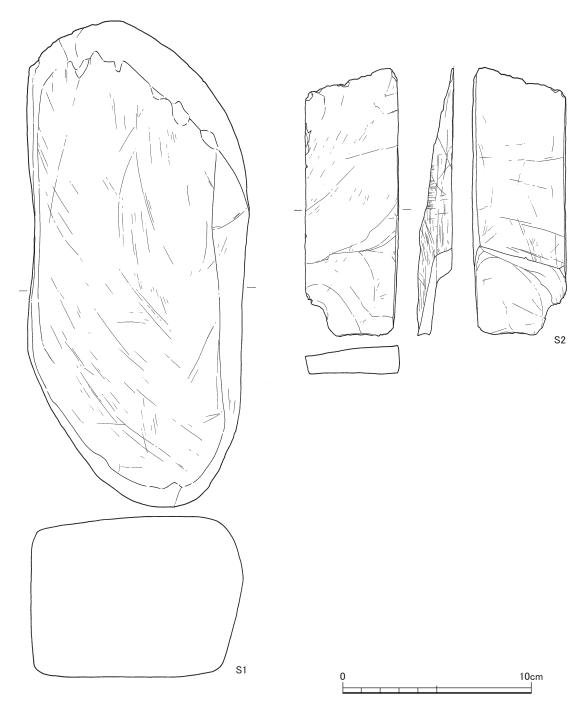
体部下半が無釉で、高台部を削り出した肥前焼陶器皿(109)が出土している。口縁端部には鉄釉が 塗布されている。17世紀前半のものと考えられる。

磁 器 (第16図・写真図版25~27)

染付ないしは白磁の碗・鉢・小杯・皿・蓋・瓶が出土している。

染付碗は($110 \sim 112 \cdot 114 \cdot 116 \sim 118$)がある。112 は染付顔料に酸化コバルトを使用した明治期のものである。 $111 \cdot 114$ は見込みに針目跡がある。117 は蛇ノ目釉剥ぎの碗である。118 は広東形碗で、外面には海浜風景が描かれる。

鉢(113)は型打ち成形の八角形の角鉢である。底部は蛇ノ目凹形高台である。115は小坏である。



第 18 図 出土石製品

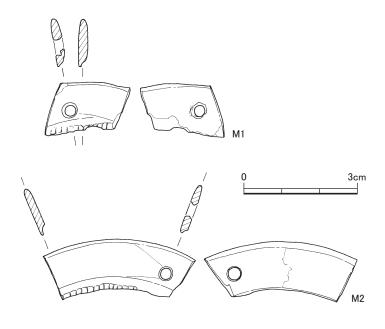
124は蛇ノ目釉剥ぎの鉢である。外面には染付と鉄絵が施される。

皿は(119~123)がある。119は型打ち成形の八角形皿である、見込みには扇文が描かれる。海浜風景が描かれた121は見込みに針目跡を残し、円錐ピンが熔着している。122・123は蛇ノ目凹形高台の皿である。122の見込みには山水文が描かれる。

125 は型紙刷りによる絵柄をもつ蓋である。126 は瓶である。内面と畳付は無釉で、畳付には砂が付着する。127 は仏飯具である。

窯道具 (第17図・写真図版25)

トチン (128) とサヤ (129) がある。129のサヤには糸切り痕が残る。



第19図 破 鏡

石製品 (第 18 図・写真図版 28)

砥石が出土している。S 1 は自然石を利用した大型の砥石であり、4 面とも使用されている。S 2 は 剥離した粘板岩を砥石として利用している。

破鏡 (第19図・写真図版29)

土器と同じ場所から破鏡($M1 \cdot M2$)が 2 点出土している。いずれも鏡の縁から外区の部分を利用したものである。M1 は、長さ 2.2 cm、幅 1.3 cm、厚さが 0.25 cm を測る。割れ口の一部は成形のために研磨されている。穿孔が一ケ所あり、両側から穴が穿たれる。穴の直径は鏡背側で 0.5 cm、鏡面側で 0.4 cm と若干大きさが違う。

M2は、長さ 4.1cm、幅 1.3cm、厚さが 0.25cmを測る。割れ口の一部は成形のために研磨されている。穿孔が一ケ所あり、両側から穴が穿たれる。穴の直径は 0.4cmである。M1・M2ともに鏡背面の内側には、鏡の外区に描かれていたと考えられる櫛歯文の一部が残る。

第3節 兵庫県豊岡市出石町の鳥居遺跡から出土した 鏡片の鉛同位体比

第3章 第3節は 公開していません

第4章 総 括

工事中に、川底に堆積した砂層から遺物が出土したことにより調査が行われたため、通常の発掘調査 とは異なり、包含層から遺物を採取する調査となった。出土遺物は遺構に伴わないため一括性はない が、完形の遺物が多く、良好な資料と言える。

出土した遺物の時期は、①弥生中期以前②庄内併行期③5世紀末~6世紀初め④7世紀初め⑤8世紀後半⑥11世紀~12世紀前半⑦17世紀⑧18世紀末~19世紀前半に分けられる。

庄内併行期の土器は主に丹後系で複合口縁をもつ在地の土器群で構成され、その中に少数の丹波系の在地のくの字口縁の甕⁽²⁾や山陰系の特徴を持つ土器が含まれている。山陰地方をはじめ日本海沿岸ルートでの影響があったことが伺える資料であり、これまでの但馬地域での様相と一致している。また、従来から但馬のタタキ甕の受容が少ないと指摘⁽¹⁾されているように、鳥居遺跡でもタタキ甕の出土は極わずかであり、タタキ甕が但馬では盛行することなく布留期に移行していったと推定される。

これら出土遺物のほとんどはローリングを受けておらず、特に②時期の甕には煤や焦げが良好に残存している。そのため、これら遺物は上流から流されて来たものではなく、出土場所近辺に廃棄あるいは意図的に置かれたものと考えられる。しかし、鳥居遺跡周辺では、川へ土器を廃棄したと考えられる集落は確認されていない。鳥居遺跡と似た性格の遺跡として、鳥居遺跡より1.6km北にある多田地小谷遺跡が上げられる。この遺跡では、布留期の遺物が河川から大量に出土している。出土場所や状況など鳥居遺跡と共通する点が多い。このことから、庄内併行期から布留期に亘り、川に土器を廃棄するもしくは祭祀などで意図的に土器を川に置く習慣があったと言える。ただ、廃棄もしくは配置された土器が日常使用する土器であるため、この行為の性格は不明である。土器と同じ場所から破鏡が2点出土している。分析結果から青銅材料は中国華北産であることが判明している。第3章第3節では青銅鏡以外の可能性も否定できないとされているが、分析後、再度肉眼観察を行った結果、櫛歯文が確認されたことから青銅鏡であるとした。青銅鏡が出土した可能性として、近隣の古墳から流出した可能性が考えられる。鳥居橋南西側の出石川に面する尾根に、中世の山城である鳥居城がある。この同じ尾根付近に未知の古墳または弥生墳墓が存在し、破鏡の流出源となった可能性も否定できない。

染付の一群は、同出石町で肥前焼系染付磁器の写しを生産した古出石焼³³の範疇で捉えることが妥当と考えられる。出土した磁器の年代は肥前焼磁器の編年に従えば、おおよそV期におさまり18世紀末~19世紀前半に比定される。古出石焼の磁器焼成は18世紀末から始まったと考えられており、時代的な矛盾はない。ただ、絵付け顔料に酸化コバルトを用いた112の碗、型紙刷りの125の蓋は明治期まで降るものと理解できる。絵付けの内容についても、119の扇文、120~121の山水ないしは海浜風景などのモチーフは伝世資料をはじめ奥田窯跡・椋谷窯跡などの表採資料中に確認することができる。また、121の皿には円錐ピンが熔着していることや、サヤ・トチンといった窯道具が一緒に出土していることも、今回出土した染付磁器が古出石焼の製品であることを補強している。

[註]

- (1) 谷本進2001 「但馬における庄内併行期の土器の様相」『北近畿の考古学』 両丹考古学研究会・ 但馬考古学研究会
- (2) 高野陽子2009 「弥生後期土器の地域色とその系統」『京都府埋蔵文化財情報』第108号 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- (3) 森内秀造・山口久喜1998 『山口コレクション-古出石焼-』収蔵資料目録6 兵庫県立歴史博物館

報告悉早	図版番号	写真図版	種別	器種					量 (cm)				煤	黒斑	備考 1
		番号				器高	底径		幅	厚み	腹径	重量			編考 外面:体部ハケ+直線文+波状文 内面:体部ハケ
01	5	11	弥生土器	水差	-	(9.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	把手部分 胎土: 長石多い
02	5	11	弥生土器	壺	-	(11.8)	-	-	_		_	-	-	0	外面 : 直線文+斜格子文 内面 : ヨコハケ 胎土 : 砂粒が大きい (3mm)
03	5	11	弥生土器	甕	(22.9)	(10.3)	-	-	-	-	-	-	0	-	外面: 煤のため調整不明 内面: 体部ミガキ
04	5	11	弥生土器	薨	(25.1)	(4.4)	-	-	-	_	_	-	0	-	くの字口縁 外面:体部ハケ 内面:ナデ? 胎土:長石、石英多い
05	6	11	弥生土器	壺	13.3	(10.0)	-	-	-	-	-	-	-	0	跳ね上げ口縁+擬凹線 外面:体部ハケ+ミガキ 内面:頭部ハケ+体部ケズリ 胎士:長石、石英多い
06	6	11	弥生土器	壺	21.4	(8.25)	-	-	-	-	-	-	-	-	拡張口縁+擬凹線+円形浮文(竹管) 外面: 頸部ハケ 内面: 口縁部ミガキ+頸部ハケ 胎土: 長石、石英チャート多い
07	6	12	弥生土器	壺	(28.4)	(9.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+擬凹線 内面:口頸部ミガキ 胎土:長石、石英含む
08	6	12	弥生土器	壺	(16.1)	(5.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+ヨコナデ 外面: 頸部指頭圧痕 内面: 頸部ミガキ+指頭圧痕 胎土: 長石、石英多い
09	6	12	弥生土器	荛	(20.4)	(9.1)	-	-	-	-	-	-	0	-	複合口縁+ヨコナデ 外面:体部タテハケ 内面:体部ケズリ 胎土:長石多い 山陰系
10	6	11	弥生土器	轭	15.4	26.1	2.8	-	-	-	18.85	-	0	-	複合口縁+ヨコナデ 傾射所の体部に小さい平底 外面: 体部ハケ+肩部に波状文 内面: 体部ケズリ 胎士: 長石、石英、チャート多い 山陰系
11	6	11	弥生土器	底部	-	(8.6)	6.6	-	-	-	-	-	-	0	線刻 「+」 記号文 平底 ・底部内面にくぼみあり 外面 ・体部パヤ 内面 : 体部ハケ+ミガキ
12	6	11	弥生土器	底部	-	(11.6)	4.4	-	-	-	(21.6)	-	-	0	平底 外面: 体部ハケ+ミガキ 内面: 体部ケズリ
13	6	11	弥生土器	底部	-	(24.6)	(8.6)	-	-	-	-	-	-	0	平底 外面:体部ミガキ 内面:調整不明
14	6	12	弥生土器	底部	-	(6.65)	6.75	-	-	-	-	-	-	0	突出した平底 外面: 体部ハケ 内面: 体部ハケ
15	6	12	弥生土器	底部	-	(5.3)	4.7	-	-	-	-	-	0	0	線刻「 記号文? 外面: 体部ハケ 内面: 体部ハケ 胎士: 長石、石英多い ドーナツ底
16	7	12	弥生土器	直口壺	(11.1)	(11.25)	-	-	-	-	-	-	-	-	直口する口縁 端部に面を持つ 外面:口縁ハケ 内面:口縁ハケ 内面:口縁ハケ+頸部ケズリ 胎士:長石、石英含む
17	7	12	弥生土器	壺	-	(15.3)	3.1	-	-	-	14.8	-	-	0	無花果形の体部に平底 外面:ハケ 内面:頸部ハケ+体部ケズリ 胎土:石英少し含む
18	7	12	弥生土器	壺	10.6	14.3	2.2	_	_	_	11.6	-	-	0	体部下半に穿孔あり 膝注上げ口診 無花果形の体部に小さい底部 外面: ハケ 小面: 口線部ハケ+体部ケズリ
19	7	13	弥生土器	短頸壺	12.3	23.1	(3.8)	-	-	-	14.6	-	-	0	外互しながら伸びる口縁 長胴型の体部に平底 外面:頭部ハケ+体部ハケ 内面:口頸部ハケ+体部ケズリ 胎土:緻密
20	7	13	弥生土器	長頸壺	11.7	25.25	3.9	-	-	-	16.4	-	-	0	頸部に逆「U」字形の彫り込み記号文 底部方寸、線刻「+」記号文字 直口する口縁十端部ヨコナデ 球形の体部に内面にくばぶもつ平底 外面: 口質部・ケー体部・ケー 内面: 頸部板ナデ+体部ケズリ
21	7	13	弥生土器	短頸壺	(12.2)	28.9	6.6	_	-	_	平均18.4 ぐらい ひずみ 大きい	-	0	0	短く外反する口線 肩が張る倒卵形の体部に平底 外面: 12線部ハケナハケ 内面: 頸部ハケナ体部ケズリ
22	7	13	弥生土器	壺	-	(26.2)	6.2	-	-	-	(23.0)	-	0	0	倒卵形の体部に突出した底部 外面: 体部ハケ+ 肩部に刻み目+底部タタキ 内面: ケズリ 胎士: 石英多い
23	8	12	弥生土器	長頸壺	(16.3)	30.35	(5.05)	-	-	-	17.9	-	0	0	拡張口線+太い接凹線 長く上方に伸びる頭部 算盤形に近い体部に平底 外面:体部ハケ 内面:頭部ハケ+ミガキ 体部上半板ナデ+下半ハケ
24	8	14	弥生土器	薨	(16.0)	(5.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	くの字口縁に拡張端部 内面:ケズリ
25	8	14	弥生土器	娅	(12.6)	(14.4)	-	-	-	-	(13.45)	-	0	0	くの字口縁 端部はねあげ 外面: ハケ 内面: ケズリ
26	8	14	弥生土器	甕	(19.2)	(9.6)	-	-	-	-	(19.85)	-	-	0	くの字口縁 端部彫はし上げ 外面: 体部ハケ 内面: 体部アズリ
27	8	14	弥生土器	荛	(14.85)	(15.7)	-	-	-	-	14.2	-	0	-	くの字口縁 端部丸くおさめる 外面: 口縁部ハケ+体部ハケ 内面: 体部ケズリ
28	8	14	弥生土器	컢	(16.2)	24.2	3.2	-	-	-	18.4	-	0	-	くの字口線 端面に面をもつ 外面: ハケ 内面: ハケ
29	8	14	弥生土器	甕	14.2	15.6	2.1	-	-	-	13.1	-	0	0	複合口縁+ヨコナデ 倒卵形の体部に小さな底部 外面:ハケ 内面:ケブ
30	8	15	弥生土器	甕	14.9	18.1	3.0	-	-	-	15.7	-	0	0	複合口縁+ヨコナデ 倒卵形の体部に小さな底部 外面:ハケ 小面: ケズリ

		写真図版							退7勿氏 量 (cm)					里	
報告番号	図版番号	写具凶版 番号	種別	器種	口径	器高	底径		量(cm) 幅	厚み	腹径	重量	煤	黒斑	備考 1
31	8	15	弥生土器	甕	(15.7)	21.9	2.8	-	-	-	17.3	-	0	0	複合口線+ヨコナデ 倒卵形の体部に小さな底部 外面:ハウ 内面:ケズリ
32	8	15	弥生土器	甕	(16.0)	13.1	尖底	-	_	-	14.2	-	0	0	複合口縁+ヨコナデ 無花果形の体部に尖り底 外面: 体部ハケ+底部タタキ 内面: ケズリ
33	8	15	弥生土器	荛	14.8	15.8	2.3	-	-	-	14.7	-	0	0	複合口縁+ヨコナデ 倒卵形の体部に小さな底部 外面: ハケ 内面: ケズリ
34	8	15	弥生土器	甕	(19.6)	(26.4)	-	-	-	-	(25.0)	-	0	0	複合口縁 + 四線 倒卵形の体部 外面: 体部ハケ 内面: 体部ケズリ
35	9	15	弥生土器	荛	(13.6)	(13.0)	-	-	-	-	(13.0)	-	0	0	直立に立ち上がる複合口縁+明瞭な擬凹線 薄い端部 側卵形の体部 肩部に直線文+貝殻文 外面: 体部ハケ 内面: 体部ハケ 山底系
36	9	16	弥生土器	魏	(16.7)	18.1	-	-	-	-	-	-	0	0	複合口縁+擬凹線 外面: 体部ハケ 内面: 体部ケズリ
37	9	16	弥生土器	骢	-	(2.45)	-	-	-	-	-	-	0	-	貝殼文+直線文 山陰系
38	9	16	弥生土器	轭	13.6	14.5	2.75	-	-	-	13.3	-	0	0	接合口録+擬凹線 無花果形に体部に小さな底部 底部に上げ底状の剥雕面 外面: 体部ハウ 内面: 体部のク
39	9	16	弥生土器	甕	13.6	16.5	2.2	-	-	-	13.8	-	0	0	複合口線+擬凹線 倒卵形の体部に小さな底部 外面:ハケ 内面:ケズリ
40	9	16	弥生土器	薬	(15.6)	16.75	2.5	-	-	-	15.55	-	0	0	複合口線+振印線 倒卵形の体部に小さな底部 底部は上げ底 外面: ハク 内面: ケズリ
41	9	16	弥生土器	蓰	14.7	18.6	2.4	-	-	-	15.35	-	0	0	直立に立ち上がる複合口縁+明瞭な擬凹線 薄い端部 傾卵形の体部に小さな底部 外面: 口縁ハケ+体部ハケ 内面: 体部ケズリ 山陰系
42	9	17	弥生土器	甕	15.3	20.8	2.9	-	-	-	16.6	-	0	0	直立に立ち上がる複合口縁+多条の擬凹線 端部外反 倒卵形の体部に小さな底部 外面:ハウ 内面:ケズリ
43	9	17	弥生土器	驰	15.8	23.05	4.85	-	-	-	17.7	-	0	0	複合口線+ヨコナデ 倒卵形の体部に平底 外面: ハケ+タタキ 内面: 体部上半ケズリ+下半ハケ
44	9	17	弥生土器	甕	17.5	22.45	2.55	-	-	-	18.1	-	0	0	複合口線+擬印線 例卵形の体部に小さな底部 外面:ハウマ 内面:ケズリ
45	9	17	弥生土器	甕	(17.5)	23.1	3.7	-	-	-	(17.75)	-	0	0	複合口線土操印線 倒卵形の体部に小さな底部 外面: ハケ 内面: ケズリ 胎土: 白っぽい
46	10	17	弥生土器	甕	17.8	25.8	2.2	-	_	-	19.9	-	0	0	複合口線+擬凹線 側卵形の体部に小さな底部 底部上げ底 外面: ハク 内面: ケズリ
47	10	17	弥生土器	誕	17.5	27.3	3.4	-	-	-	20.4	-	0	0	複合口線 + 擬凹線 倒卵形の体部に小さな底部 外面: ハウ 内面: ケズリ
48	10	18	弥生土器	鉢	(31.6)	(13.8)	-	-	-	-	-		-	0	複合口縁+明瞭な擬凹線 外面: ハケ+ミガキ 内面: ハケ+ミガキ
49	10	18	弥生土器	鉢	(17.3)	(14.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+ヨコナデ 惋状の体部に平底もしくは脚台付き? 外面:ハケヤミガキ 内面:ハケキミガキ
50	10	18	弥生土器	鉢	(15.9)	(8.6)	(8.1)	-	-	-	-	-	0	-	〈の字に外反する口縁端部に面をもつ外面:ハケ内面:ケズリ
51	10	18	弥生土器	鉢	16.1	12.25	7.55	-	-	-	-	-	0	-	直線的に開く口縁に平底 端部に平坦面 外面: 煤のため調整不明 内面: ハケ
52	11	19	弥生土器	有孔土器	11.0 ~ 11.4	11.5	1.0	-	-	-	-	-	-	0	倒卵形の体部に尖り底 端部は丸くおさめる 外面: ハケキミガキ 内面: ケズリキミガキ
53	11	19	弥生土器	有孔土器	13.8	13.65	1.3	-	-	-	-	-	-	0	倒卵形の体部に尖り底 口縁丸くおさめる 外面:ハケ 内面:ケズリ
54	11	19	弥生土器	有孔土器	(19.3)	(11.3)	(3.4)	-	-	-	-	-	-	0	内落型目線部で毎別形の体部に小さな底部 口線内側でヨコナデで丸くおさめる 外面: ハケ 内面: 板ナデ
55	11	19	弥生土器	有孔土器	3.0	8.0	4.3	-	-	-	-	-	-	0	倒卵形の体部に小さな底部 口線内傾でヨコナデで丸くおさめる 外面: ハケ 内面: ナズリ
56	11	18	弥生土器	有孔土器	3.8	6.0	2.9	-	-	-	14.1	-	-	0	直線的に開く口縁に小さな底部 端面:タタキ? 内面:ナデ

		宇吉网屿							退彻 的 量 (cm)					m	
報告番号	図版番号	写真図版 番号	種別	器種	口径	器高	底径	長さ	重 (cm) 幅	厚み	腹径	重量	煤	黒斑	備考 1
57	11	18	弥生土器	有孔土器	(16.2)	(15.0)	(2.4)	-	-	-	-	-	-	0	直線的に開く口線に小さな底部 端部に平坦面 外面: 小ケ 内面: 板ナデ
58	11	19	弥生土器	有孔土器	9.4	5.1	2.2	-	_	_	12.4	-	-	0	くの字口線 端部の面を持つ 長欄形の体部に平底(壺) 外面:ハケ 内面:アズリ
59	11	19	弥生土器	鉢	14.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	0	内湾型口縁+ヨコナデ 端部よくおさめる 外面: ハケ 内面: 剛整不明
60	11	20	弥生土器	鉢	(16.2)	(9.3)	-	-	-	-	-	-	-	0	開く口縁に端部少し外反 外面:調整不明 内面:板ナデ
61	11	20	弥生土器	鉢	(17.2)	(8.0)	-	-	-	-	-	-	-	0	焼状に閉(体部で口縁部に稜をもつ 端部に平坦面 外面: ハケ 内面: 口縁ハケ+体部板ナデ
62	11	20	弥生土器	鉢	(17.8)	(10.0)	-	-	-	-	-		-	-	・ 一般状に閉く体部で口縁部に稜をもつ 端部に平坦面をもつ 外面: ハケ 内面: ハケ+ケズリ
63	11	20	弥生土器	鉢	(11.8)	(9.5)	-	-	-	-	-	-	-	0	内湾型口縁+ヨコナデ 端部丸くおさめる 外面: ハケ 内面: ハケ+ミガキ
64	11	19	弥生土器	台付鉢	(10.1)	(11.05)	6.5	-	-	-	-	_	-	0	内湾型ロ縁+低脚付き脚台 端部丸くおさめる 外面:体部測整不明+脚部指頭圧痕 内面:ケズリ
65	11	19	弥生土器	鉢	12.6	6.95	2.8	-	-	-	-	-	-	0	複合 1 経 十 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
66	11	20	弥生土器	脚	-	3.7	4.2	-	-	-	-	-	-	0	低脚 外面: 夕夕午+指頭圧痕 内面: ハケ
67	11	20	弥生土器	脚	-	4.8	4.8	-	-		-	-	-	0	低脚 外面: 指頭圧痕 内面: ハケ?
68	12	20	弥生土器	高杯	(17.8)	5.7	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+ヨコナデ 椀状の杯部
69	12	21	弥生土器	高杯	(24.1)	(8.35)	-	-	-	-	-		-	-	複合口縁+ヨコナデ 楠状少杯部 外面: 調整不明 内面: ミガキ
70	12	20	弥生土器	高杯	(26.05)	(7.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+多条の擬凹線 浅、端斗型の杯部 外面: 調整不明 内面: ハケ
71	12	20	弥生土器	器台	(23.5)	5.1	-	-	-	-	-	-	-	0	複合口縁+多条の擬凹線 浅、端斗型の杯部 外面: 5才キ 内面: ハケ
72	12	20	弥生土器	器台	(20.0)	(5.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	複合口縁+多条の擬凹線 浅い漏斗型の杯部
73	12	21	弥生土器	複合土器	-	(2.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	竹管文
74	12	21	弥生土器	高杯	(15.3)	(4.4)	-	-	-	-	-	-	-	0	内頼する口縁部+凹線 少し外反する端部 浅く腰のはる杯部 外面: ミガキ 内面: ミガキ
75	12	21	弥生土器	高杯	(15.2)	(6.1)	-	-	-	-	-	-	-	0	椀状の杯部に口縁部端部を少し外反させる 外面:ハケ 内面:調整不明
76	12	21	弥生土器	小型器台	13.6	(5.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	浅い受邪に小さく立ち上がる口縁 端部丸くおさめる 外面: 口縁ココナデ+杯部ミガキ 内面: ハケ
77	12	21	弥生土器	小型器台	13.4	4.2	-	-	-	-	-	-	-	0	浅い受部に小さく立ち上がる口縁 端部丸くおさめる 外面: ジガキ 内面: ハケ
78	12	21	弥生土器	小型器台	(8.9)	(9.1)	(10.4)	-	-	-	-		-	0	X状の器台 受部端部少し外反させ脚端部丸くおさめる 外面:ハケトミガキ 内面:ハケ
79	12	21	弥生土器	脚	-	4.2	12.45	-	-	-	-	-	-	0	大きく開く脚部 外面:調整不明 内面:調整不明
80	12	21	弥生土器	脚	-	(2.05)	-	-	-	-	-	-	-	-	大きく開く口縁部 端部拡張 円孔をめぐらす
81	13	22	土師器	甕	(15.3)	(6.0)	-	-	-	-	-	-	0	-	くの字に外反する口縁 端部に丸くおさめる 外面: ヨコナデ 内面: ケズリ
82	13	22	土師器	甕	(17.0)	(12.7)	-	-	-	-	22.3	-	0	-	くの字に外反して少し内湾しながらのびる口縁 端部を小側に肥厚 球形の体部 外面: シテハケ+ヨコハケ 内面: ケズリ
83	13	22	土師器	甕	13.5	21.2	丸底	-	-	-	18.6	-	0	-	くの字に外反して少し内湾しながらのびる口縁 端部は内側に肥厚する 球形の体部 外面:体部タテハ+ヨコハケ肩部波状文 内面:口頸部ハケ+体部上半ケズリ+下半指頭圧痕
84	13	22	土師器	甕	(15.3)	(19.3)	-	-	-	-	(23.9)	-	-	-	くの字に外反してわずかに内湾しながらのびる口縁 端部は内側に肥厚する 球形の体部 外面: タテハケ+ヨコハケ 内面: ケズリ

		무호교내								兄祭衣				m	
報告番号	図版番号	写真図版 番号	種別	器種	口径	器高	底径	長さ	量(cm) 幅	厚み	腹径	重量	煤	黒斑	備考 1
85	13	22	土師器	直口壺	12.0	18.8	丸底	-	-	-	15.2	-	-	0	くの字に外反して上方にのびる口縁 球形の体部 外面: 体部ハケ 内面: 口縁部ハケ+体部ケズリ+下半に指頭圧痕
86	13	22	土師器	高杯	(15.6)	(4.35)		-	-	-	-	-	-	-	模状の深い杯に少し外反する端部 外面: 調整不明 内面: 放射状ミガキ
87	13	22	土師器	低脚杯	19.5	5.4	5.7	-	-	-	-	-	-	-	低脚杯 浸い杯部に低く小さな脚 端部は丸くおさめる 外面: 調整不明 内面: ジガキ
88	14	23	須恵器	杯蓋	(14.4)	(3.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	天井部回転ヘラケズリ
89	14	23	須恵器	杯蓋	-	(1.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	天井部回転ヘラケズリ
90	14	23	須恵器	杯蓋?	-	(2.25)	-	-	-	-	-	-	-	-	天井部回転ヘラケズリ
91	14	23	須恵器	杯身	13.4	4.85	-	-	-	-	-	-	-	-	底部回転へラケズリ
92	14	23	須恵器	壺	(15.8)	(4.8)	-	-	-	-		-	-	-	口縁部に自然釉 回転ナデ
93	14	23	須恵器	璲	-	(10.0)	-	-	-	-	12.4	<u> </u>	-	-	回転ナデ 底部に「一」状のヘラ記号
94	14	23	須恵器	甕	(23.7)	(7.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	体部:平行タタキ後カキ目 口縁部:回転ナデ
95	15	23	須恵器	杯蓋	(16.7)	(1.2)		-	-	-	-	-	-	-	回転ナデ
96	15	23	須恵器	杯	-	-	(9.0)	-	-	-		-	-	-	杯B
97	15	23	須恵器	杯	-	(1.85)	(13.0)	-	-	-		-	-	-	杯B
98	15	23	須恵器	椀	-	(1.7)	(7.9)	-	-	-	-	-	-	-	底部回転糸切り
99	15	23	須恵器	椀	-	(1.7)	(5.9)	-	-	-	-	-	-	-	底部回転糸切り
100	15	23	須恵器	椀	-	(3.8)	(6.2)	-	-	-		-	-	-	底部回転糸切り
101	15	23	備前焼	擂鉢	(29.6)	(3.55)	-	-	-	-	-	-	-	-	摩滅著しい
102	15	24	黒色土器	杯	(16.4)	(5.45)	(6.6)	-	-	-	-	T -	-	-	杯 A 内黒ミガキ調整 底部回転糸切り
103	15	24	黒色土器	杯	(15.8)	5.5	6.5	-	-	-	-	-	-	-	杯 A 内黒ミガキ調整 底部回転糸切り
104	15	24	黒色土器	杯	-	(1.4)	5.7	-	-	-	-	-	-	-	杯 A 内黒ミガキ調整 底部回転糸切り
105	15	24	黒色土器	杯	-	2.7+	6.0	-	-	-	-	-	-	-	杯 A 内黒ミガキ調整 底部回転糸切り
106	15	24	黒色土器	杯	-	2.15+	6.0	-	-	-	-	-	-	-	杯 A 内黒ミガキ調整 底部回転糸切り
107	15	24	黒色土器	Ш	(9.5)	(1.75)	(6.6)	-	-	-	-	-	-	-	両黒 全面ミガキ
108	16	25	瓦質土器	土管?	(21.8)	(4.4)		-	-	-	-	-	-	-	
109	16	25	肥前焼	Ш	(10.1)	3.2	(4.1)	-	-	-	-	-	-	-	灰釉 轆轤成形 回転ナデ 高台削り出し 外面体部下半露胎 口緑端部鉄釉塗布
110	16	26	染付磁器	碗	(8.0)	4.2	(3.55)	-	-	-	-	-	-	-	外面蔓文(葡萄)見込み鷺?畳付無釉
111	16	26	染付磁器	碗	(10.1)	5.3	(4.0)	-	-	-	-	-	-	-	端反碗 外面草文 見込み ?文・針目跡 畳付無釉
112	16	26	染付磁器	碗	(14.0)	(4.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	端反碗 外面草文 絵付け酸化コバルト
113	16	26	染付磁器	角鉢	(11.9)	(5.3)	(7.0)	-	-	-	-	-	-	-	八角形鉢 型打技法 外面雁金文 内面草文 高台端部施釉 高台内蛇ノ目凹形高台?
114	16	26	染付磁器	碗	-	(3.0)	(4.6)	-	-	-	-	-	-	-	外面草花(葵) 文 見込み四つ割文 針目跡(4箇所) 高台端 部無釉
115	16	26	染付磁器	小坏	-	(3.85)	(3.6)	-	-	-	-	-	-	-	外面?文 畳付無釉
116	16	26	染付磁器	碗	-	(3.3)	4.45	-	-	-	-	-	-	-	焼成不良 外面?文 畳付無釉
117	16	26	染付磁器?	碗	-	(1.8)	(4.65)	-	-	-	-	-	-	-	焼成不良 高台端部無釉 見込み蛇/目釉剥ぎ
118	16	26	染付磁器	碗	-	(4.7)	(5.8)	-	-	-	-	-	-	-	広東形碗 外面海浜風景 (松+帆掛け舟)
119	16	27	染付磁器	角皿	(8.75)	(2.6)	3.85	-	-	-	-	-	-	-	型打ち成形 八角形 高台端部無釉 内面草花 (葵)・扇文
120	16	27	染付磁器	小皿	(9.75)	2.1	(6.1)	-	-	-	-	-	-	-	山水(干網+帆掛け舟+遠山)畳付無釉
121	16	27	染付磁器	Ш	-	(2.1)	(5.2)	-	-	-	-	-	-	-	海浜(帆掛け舟+遠山)畳付無釉 円錐ピン熔着
122	16	27	染付磁器	Ш	(13.3)	3.7	(8.3)	-	-	-	-	-	-	-	山水 (干網+帆掛け舟+遠山+一庵+山水) 高台内蛇ノ目凹 形高台
123	16	27	染付磁器?	ш	-	(1.8)	(7.5)	-	-	-	-	-	-	-	焼成不良 見込み針目跡 (6 箇所)・ 二重回線(陰刻)高台 内蛇ノ目凹形高台
124	16	27	染付磁器	鉢	-	(4.9)	(10.1)	-	-	-	-		-	-	
125	16	27	染付磁器	蓋	(11.7)	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	型紙刷り
126	16	27	染付磁器?	瓶	-	(4.1)	(4.6)	-	-	-	-	-	-	-	内面無釉 高台端部無釉 (砂付着)
127	16	25	染付磁器?	仏飯器	-	(3.75)	(4.75)	-	-	-	-	-	-	-	高台端部無釉
128	17	25	窯道具	トチン	-	-	-	9.65	最大幅 8.55	断面5.25 ~5.6	_	-	-	-	土製品 表面光沢
129	17	25	窯道具	サヤ	(18.0)	(5.2)	(17.8)	-		-		-	-	-	土師質 底部糸切り
S1	18	28	石製品	砥石	-	-	-	14.1	4.97	1.85	-	106.7	-	-	
S2	18	28	石製品	砥石	-	-	-	25.6	11.75	8.45	-	4200	-	-	
M1	19	29	金属器	破鏡	-	-	-	2.2	1.3	0.25	-	-	-	-	穿孔1箇所
M2	19	29	金属器	破鏡	-	-	-	4.1	1.3	0.25		-	-	-	穿孔1箇所

写 真 図 版

写真図版 1



鳥居遺跡遠景(北から)



鳥居遺跡遠景(東から)



調査区遠景 (北東から)



調査区近景(南東から)

写真図版 3



調査区近景(北西から)



調査状況 (東から)



調査状況(北西から)

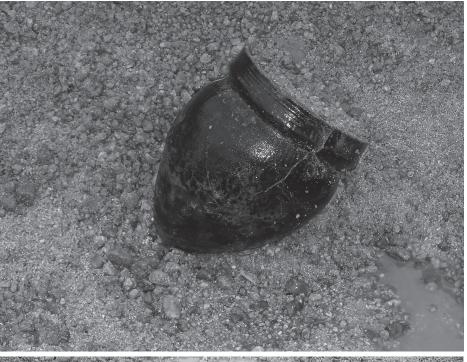


土器 5・42・47 出土状況(北東から)

写真図版 5



土器 42 出土状況 (北東から)



土器 42 出土状況 (北東から)



土器 5・47 出土状況 (南東から)

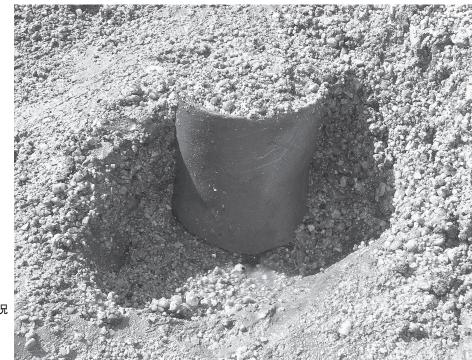
写真図版 6



土器 47 出土状況 (北東から)



土器 11 出土状況



土器 16 出土状況

写真図版 7



土器 22 出土状況 (北東から)



土器 30 出土状況 (南西から)



土器 33 出土状況 (南東から)



土器 38 出土状況 (北東から)



土器出土状況



土器 52 出土状況 (南東から)

写真図版 9



土器 48・60・63 出土状況



土器出土状況 (北西から)

写真図版 10



現地説明会



現地説明会



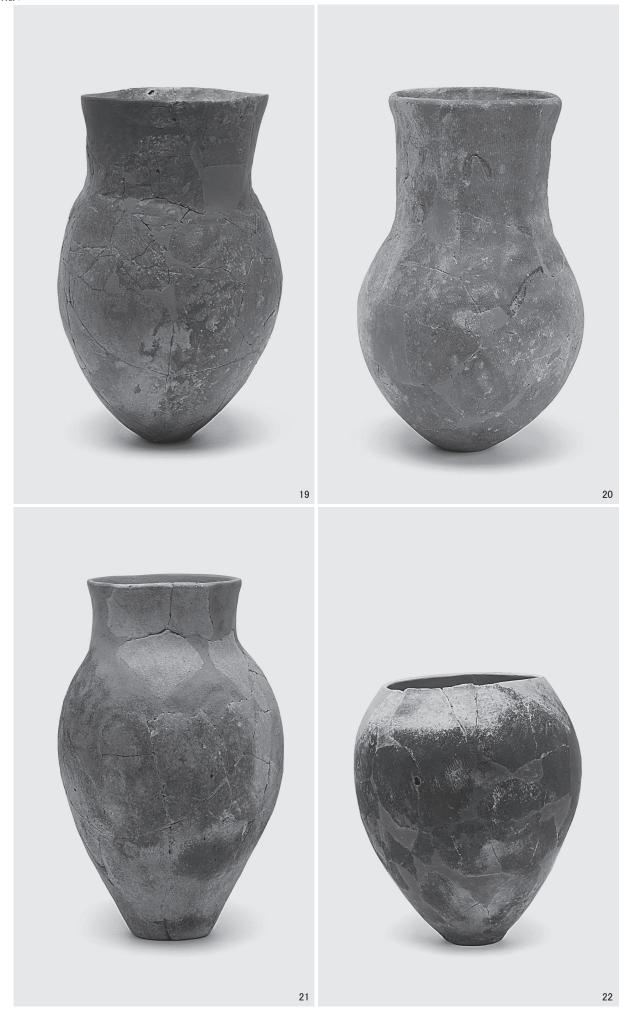
小坂小学校 5年生見学



出土土器(1)



出土土器(2)



出土土器(3)



出土土器(4)



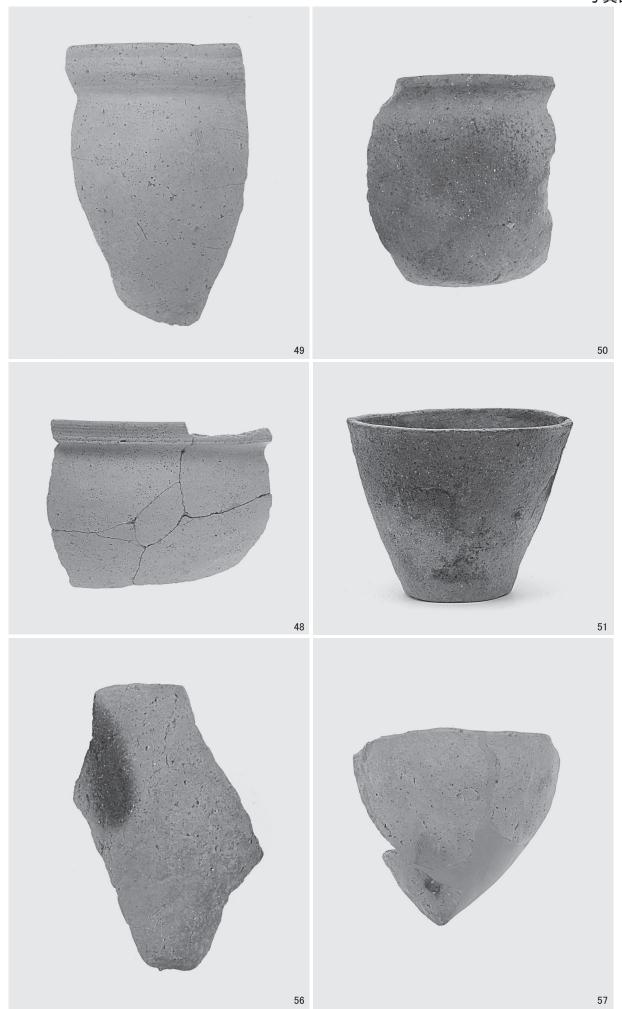
出土土器(5)



出土土器(6)



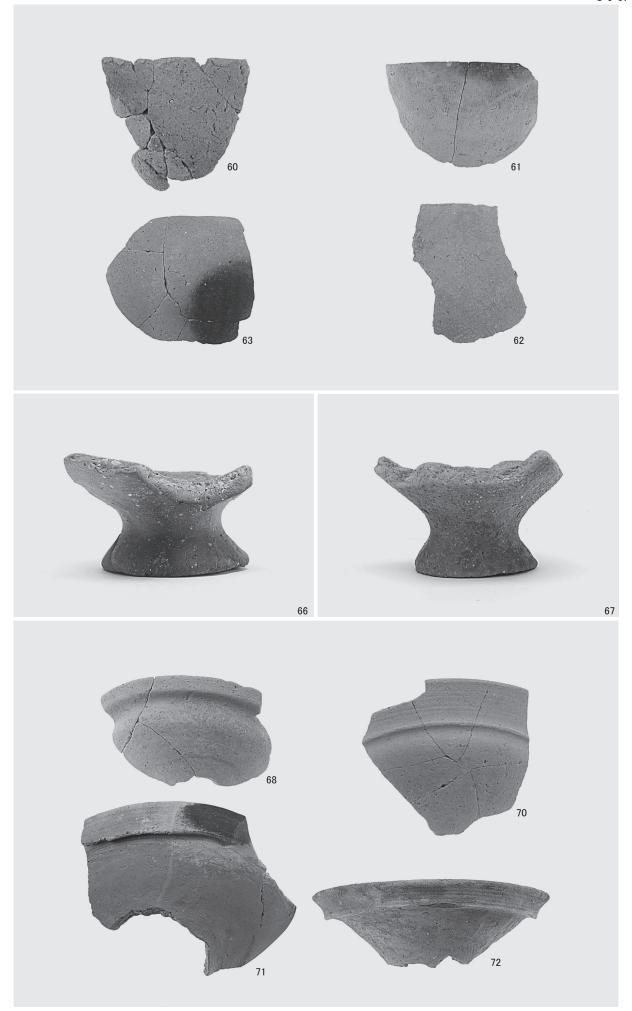
出土土器 (7)



出土土器(8)



出土土器 (9)



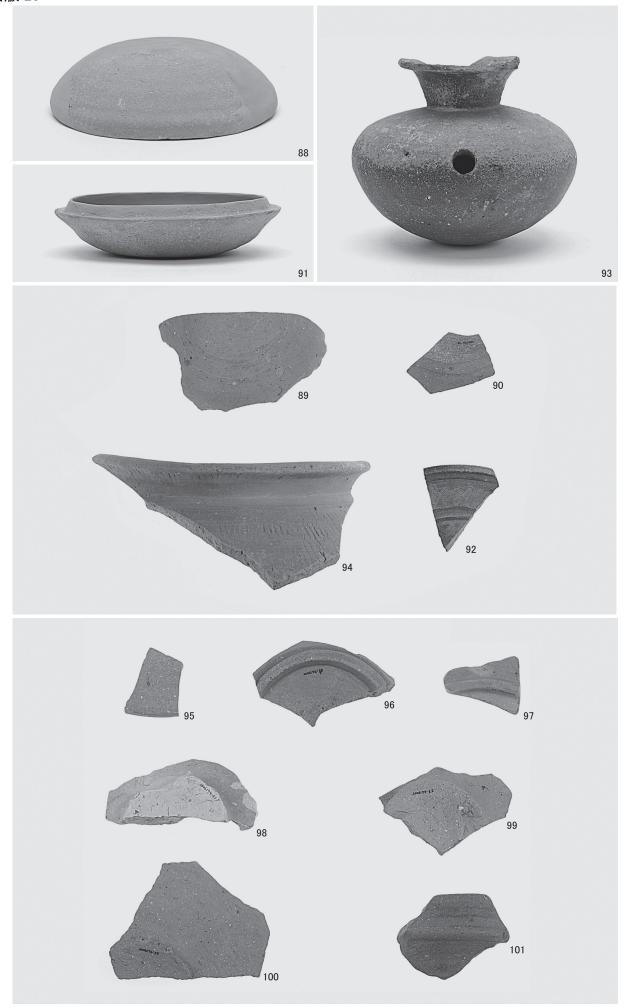
出土土器(10)



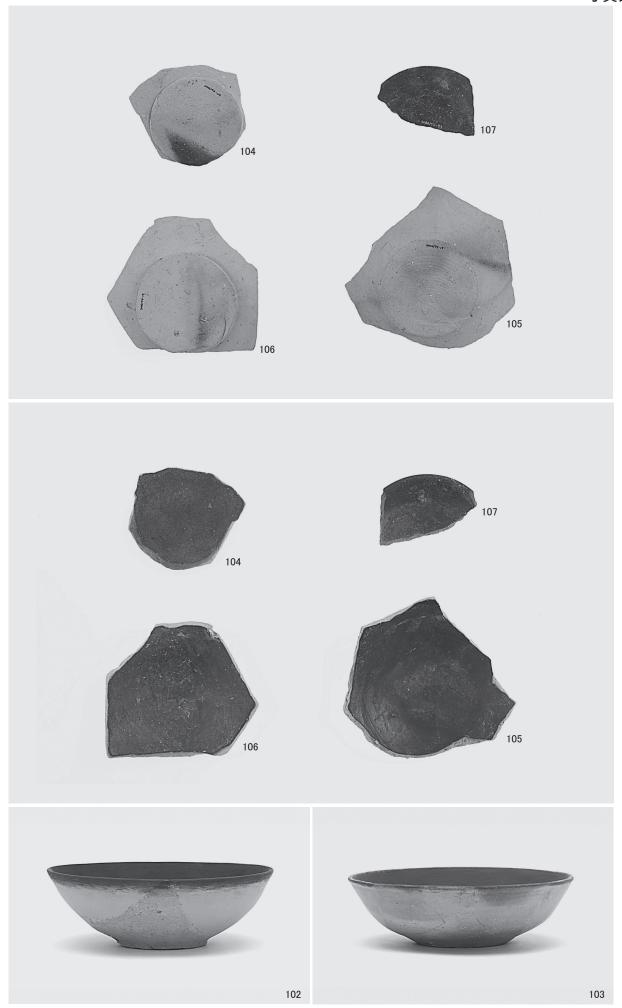
出土土器(11)



出土土器 (12)



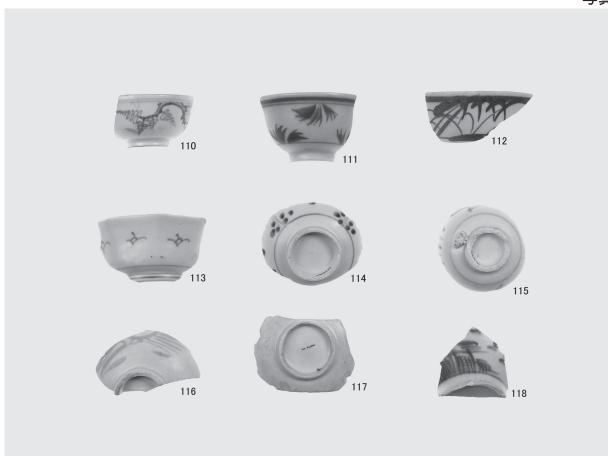
出土土器(13)

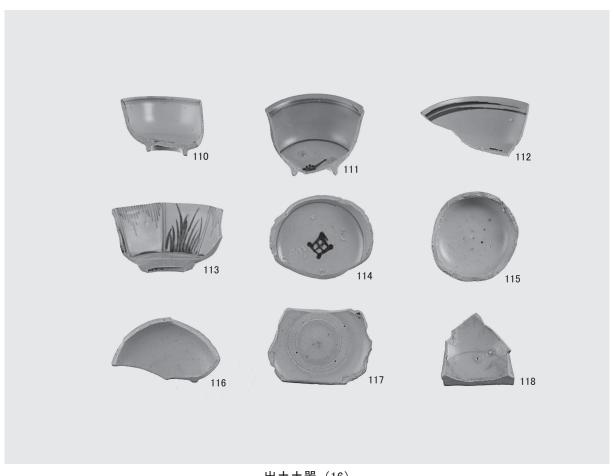


出土土器(14)

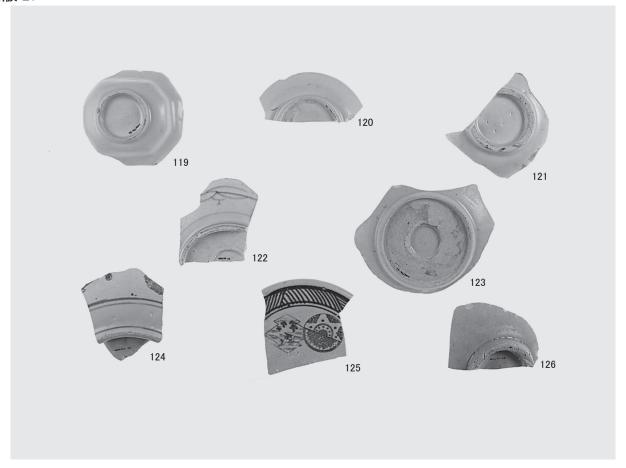


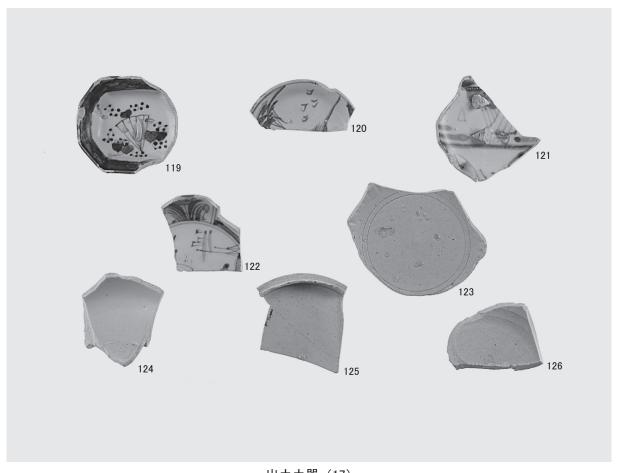
出土土器(15)





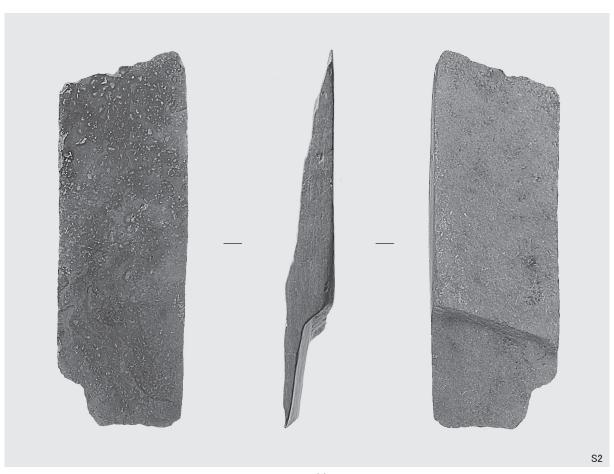
出土土器 (16)



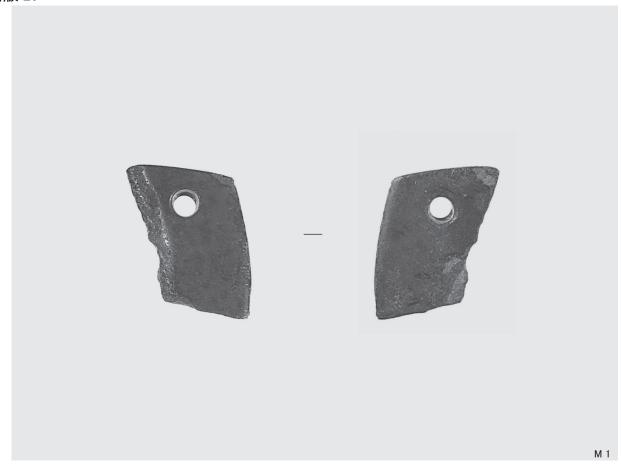


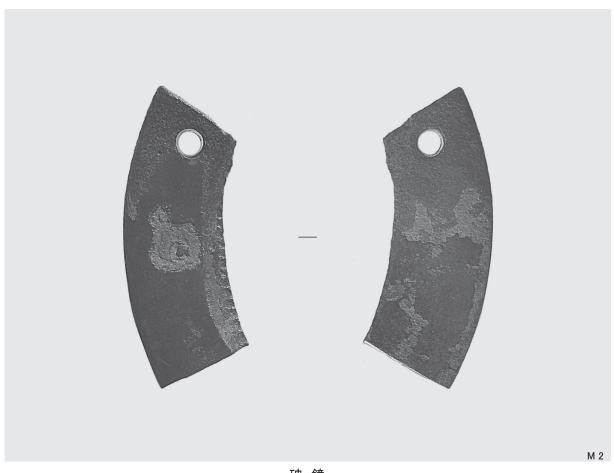
出土土器(17)





出土石製品





破 鏡

報告書抄録

ふりが	な	とりい	<i>\</i> \\							
書	名	鳥居遺跡								
副書	名	円山	円山川激甚災害特別緊急事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ	名	兵庫	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番	号	第 423 冊								
編著者	名	小川	小川弦太、長濱誠司、村上泰樹、杉村明美							
編集機	関	兵庫	兵庫県立考古博物館							
所 在	地	〒 67	〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号							
発行年月	日	平成 24 (2012) 年 3 月 16 日								
所収遺跡名 所在地			コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
			市町村	遺	跡番号					
とりい 鳥居遺跡	豊出	美庫県 豊岡市 古石町 景居	28561 620200		35 度 28 分 51 秒	134 度 51 分 35 秒	2007. 2. 28	150 m²	円山川 激甚災害 特別緊急 事業	
所収遺跡名	種	重 別	主な時代主な遺		 貴構	主な遺物		特記事項		
鳥居遺跡	散	弥生~古墳 古代・中世 近世		なし		弥生土器、土師器、 須恵器、陶磁器、 出石焼、青銅鏡(破 片)		青銅鏡の破片が2点 出土した。		

要 約

豊岡市出石町鳥居における出石川現河床において、青銅鏡の破片および完成品を含む多量の土器が出土した。遺構の検出はできず遺物の一括性は把握できない。遺物の年代は多岐にわたる。遺存状態が良いためこの地に投棄されたものと考えられる。青銅鏡の破片は近隣の古墳から流出したとも考えられるが、実態は不明である。

兵庫県文化財調査報告 第 423 冊

豊岡市出石町

鳥 居 遺 跡

- 一 円山川激甚災害特別緊急事業に伴う発掘調査報告書 一平成 24 (2012) 年 3 月 16 日発行
- 編 集 兵庫県立考古博物館 〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 TEL 079-437-5589
- 発 行 兵庫県教育委員会 〒 650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1
- 印刷 ㈱ 岸 本 印 刷 所